

大賞「水の守人マイスター」もりびと

秋田県 水土里ネット仙北平野

森林学習会やウォーキング大会など 独自性の高い取り組みで地域住民を巻き込む

工夫をこらした施設学習会が
地元の恒例行事として定着

秋田県南東部にある横手盆地の北側には、一級河川の玉川や雄物川、出川に囲まれた穀倉地帯が広がります。この地域を管轄する水土里ネット仙北平野では、平成12年度から実施している国営造成施設管理体整備促進事業を活用し、施設見学会や研修会などを開いて、水土里ネットの役割や多面的機能について地域住民に向けた啓発活動を行ってきました。その結果、非農家の人たちも地域の施設に関心を持つようになり、水土里ネットに生活用水や冬の間の流雪用水に関する要望が寄せられることが増えました。

そこで、水土里ネットが担う本来の役割をより広く地域住民に知ってもらうと同時に、地元住民を巻き込んで地域資源を次世代へ引き継ぐことを目指し、21世紀土地改良区創造運動に取り組むことになったのです。まず平成12年度から始めたのが、「水土里ネット施設学習会」です。

この活動は地元の小学生や一般住民を対象に年3回行われ、「自分が住む地域の水路に流れている水はどこから来るのだろうか？」をテーマに、用水管理センター

での学習会と頭首工などの施設見学会を実施しています。普段は接する機会が少ない施設を自分たちの目で見てもらうことで、水管理の仕組みや大変さを理解してもらうのが目的です。

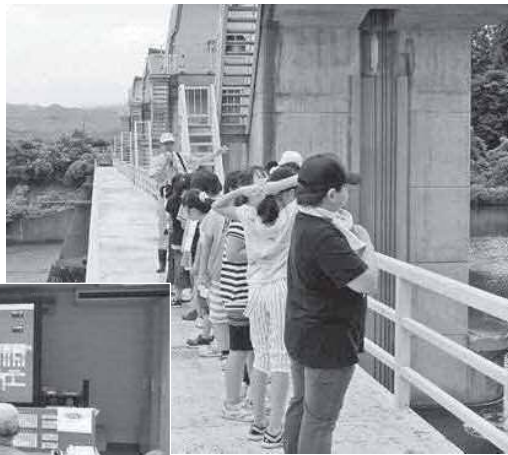
小学校や地元の多面的機能支払活動組織などと連携し、毎回綿密な打ち合わせを経て、児童たちや一般の人たちの興味をひくような配布資料を新たに作成するなど、マンネリ化防止にも気を配っています。

こうした努力が実を結び、今では毎年恒例の行事として定着し、平成28年度には延べ330人以上が参加。児童から保護者へと施設学習会で学んだことが伝わり、非農家を含む住民の理解も向上する相乗効果を生み出しています。

絶景を堪能しながら 施設について学ぶ人気行事

平成20年度からは、「水土里ネット森林学習会」を年1回実施。主催する仙北郡美郷町に水土里ネットが協力する形で学習会を開き、「森林のはたらき」をテーマに、地元を流れる水がどこから作り出されているのか理解してもらうことを目的としています。一般の人たちが楽しめるよう、クイズ形式で出題するなどの工

▶小学生の施設見学
(頭首工)



▼一般住民の施設見学 (用水管理センター)



位置図



秋田県
水土里ネット
仙北平野

▼森林学習会での
植樹活動



▼森林学習会の様子



夫をこらし、現在は小学生から大人まで200人以上が参加。また、地元の小学校から「もう一度学習会をやりたい」という要望があり、現在は学校への出前授業も行っています。

平成24年度から毎年開催している「水土里のみちウオーキングin抱返り溪谷」も好評です。

水土里ネット仙北平野が管理する玉川頭首工の管理橋を渡り、絶景を堪能しながら県立自然公園内にある抱返り溪谷随一の名勝地である「回顧の滝」を目指すコースが人気で、リピーターも増えています。自然の中を歩きながら健康増進を図るとともに、周辺に点在する農業用水施設を見学し、水土里ネット職員の説明を聞きながら施設への理解を深めてもらうことで、施設の多面的機能と水土里ネットの役割をPRできる良い機会となっています。

小学生と水質調査を実施 地元への愛着を深める機会に

平成25年度からは、「水土里ネット水生生物調査」も主催しています。これは大仙市の小学校に通う児童たちとともに、地域の清流に生息する生き物の捕獲と水質検査を実施するというもの。子どもたちが自然との絆を深めるとともに、自分が住む地域の恵まれた環境と大切さを実感してもらう場となっています。この水質調査により、水質階級のうち最も良好な状態とされる「階級Ⅰ」で清流に生息する多くの生物が発見され、地域の水源地から流れ出る「きれいな水」であることを確認できたのも大きな成果となりました。

こうした活動により、地域住民から「施設や水の管理はこんなに大変なのか」「普段なにげなく使ってい

るのは農業用水であり、その水源について理解できた」といった声が聞かれるようになり、水土里ネットの役割や活動への理解は着実に深まっていると実感しています。

今後これらの活動を継続していくため、小学校や保全組織などとの連携をより強化しながら、地域全体で21世紀土地改良区創造運動に取り組んでいく体制をさらに充実させていきたい考えです。



水生生物の捕獲体験

水土里ネット概要

水土里ネット名	水土里ネット仙北平野
役員数	20名
職員数	常勤32名
組合員数	5,411名
受益面積	9,599ha

*平成29年4月現在